

東海学院大学のアドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

東海学院大学は「国際的視野を備えた創造性と行動力豊かな教養人の育成」を建学の精神とし、幅広い教養、深い専門知識、高い技術を身につけ社会に貢献する人材育成を目標としている。

それぞれの専門分野において適切な教育課程を講義、演習、実験、実習科目として体系的に編成しており、目標を達成した者に対し学士の学位を授与する。東海学院大学の建学の精神を理解し、特に自分の能力を活かして積極的に学ぶ意欲と強い意志で成長を目指す者の受け入れを歓迎する。

学科別アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

人間関係学部

人間関係学部は、心理学の分野や子ども学の分野に深く幅広い関心を持ち、心身の諸問題に主体的に取り組むことのできる専門的な知識と技能を修得し、社会に貢献しようとする目的をもつ者を求める。

●心理学科

心理学科では、現代社会における人間関係と心身の健康をめぐる諸問題に主体的に取り組み、人々を支援し、社会に貢献できる能力を備えた人材の育成を目指している。本学科では、この教育理念に基づき、カリキュラム・ポリシーに沿った教育を受けるための基礎的な素養として、以下のような学生を求める。

- (1)心理学を学ぶ上で必要となる基礎的な知識と技能を備えている人。特に、論理的な読解・表現のための国語力に加え、心理学の研究手法を学ぶための数学的な素養、および心身の理解の基盤となる生物学的な知識など、科学的思考力の基礎を有していることが望まれる。
- (2)心理学の基礎的な知識・技能について学び、さらに専門的な心理学的知見を修得し、社会の中で活かそうとする意志をもつ人。
- (3)心と身体の健康をめぐる諸問題に関心をもち、悩みや苦しみを抱える相手の立場に立って冷静に考え、深い知識と高い技能を身につけることによって人々の役に立ちたいという意欲をもつ人。
- (4)社会における多様な人々を受容し、円滑なコミュニケーションをとることを通じて、チームの一員として主体的に問題解決に取り組む姿勢をもつ人。

●子ども発達学科

子ども発達学科では、子どもを取り巻く環境や諸課題に関心を持ち、これらの課題に主体的に取り組むことのできる人材の育成を行っている。こうした教育を受けるための条件として、次に掲げる知識・技能や、能力、意欲を備えた学生を求める。

- (1)中等教育までに学んだ基礎的な知識と技能を生かして、実践的な課題に取り組むことができる人。
- (2)これまでの学修の成果を生かして論理的に思考し、根拠に基づいて判断し、自らの考えを表現することができる人。
- (3)子どもに関わる実践的課題に主体的に取り組む意欲を持ち、多様な価値観を持つ他者と協働することができる人。

●地方創成学科

地方創成学科では、地方創成に関わる知識や経験を修得することにより、地域の産業・文化・生活を支える力を養い、地域に活力を生み出す実践力や課題解決能力を有する人材を輩出するため、カリキュラム・ポリシーに示す教育を行っている。こうした教育を受けるための条件として、以下のような学生を求める。

- (1)地域社会を理解するための前提となる基礎的な知識を持つ人。
- (2)地域に住む様々な人とコミュニケーションがとれる柔軟性や論理的思考力、表現力を有している人。
- (3)地方創成に興味があり、地域社会やそこに住む人々の役に立ちたいという意思をもつ人。

健康科学部

健康科学部は、医療・栄養の分野に深く幅広い関心を持ち、人々の健康に関する諸問題に主体的に取り組むことで社会に貢献しようとする目的をもつ者を求める。

●健康科学科

健康科学科では、生命や人間性を尊重する精神に基づく栄養や保健、医療の専門知識と技術を学び、それらを各分野における職業生活の中で実践できる能力を育み、栄養や保健、医療の分野で活躍できる人材の育成を目的とし、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに示す教育を行っている。こうした教育を受けるための条件として、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲等を備えた学生を求める。

- (1) 栄養や保健、医療の分野の知識を学ぶための基礎力を持ち、積極的に専門的な知識と技術の修得に努めることができる人。
- (2) 管理栄養士、臨床検査技師、臨床工学技士、言語聴覚士、救急救命士として栄養や保健、医療の分野で協働的な姿勢と前向きな意思をもつ人。
- (3) 栄養や保健、医療の分野で多様化した様々な問題を解決するために思考力・判断力・表現力を活用し、主体的かつ柔軟に取り組む意欲のある人。

学科別ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

人間関係学部

人間関係学部は、建学の精神に基づき、急速に変化する現代社会における人間関係をめぐる諸問題及び心身の諸問題について、心理学及び子ども学の視点から研究を行うとともに、教育課程を修め、各分野における専門的知識・技能、及び豊かな人間性を身に付けた者に学士の学位を授与する。

●心理学科

心理学科は、心理学の視点から人間関係と心身の健康をめぐる諸問題に取り組むことのできる創造性と豊かな人間性を身につけた人材を育成する。以下の目標を達成し、学則で定められた所定の期間在学し、必要な単位を修得した学生に学士(心理学)の学位を授与する。

- (1) 豊かな教養と心理学の基礎的な知識・技能を身につけていること。
- (2) 現代社会における人間関係や心身の諸問題に深い関心を持ち、主体的に課題を発見し解決しようとする意欲を有していること。
- (3) 心の多様性と普遍性に関する認識を基礎として人間を複眼的に理解することにより、円滑なコミュニケーションと相互理解に資する能力を有していること。
- (4) 心理的・身体的な援助を必要としている人に対して適切な支援を提供し、社会に貢献する力を有していること。

●子ども発達学科

子ども発達学科は、子どもらとともに自らも成長・発達を図ることのできる創造性と豊かな人間性を育むとともに、人間発達、子育て支援、子ども文化などの各領域を、保育学、教育学、心理学、福祉学などを通して学際的に学ぶことにより、子ども学等の分野における専門的知識と技能を修得し、子どもらの心身の問題や社会環境の諸問題に積極的に取り組むことのできる人材を育成するために、次のような目標を達成し、学則で定められた所定の期間在学し、必要な単位を修得した者に学士(子ども学)の学位を授与する。

- (1) 子ども学各領域に関する専門的知識と技能を生かして、実践的な課題に取り組むことができる。
- (2) 論理的に思考し、根拠に基づいて判断し、自らの考えを効果的に表現し、生涯に渡って学び続けることができる。
- (3) 豊かな人間性の涵養に努め、子ども一人一人の多様性を受容し、他者と協働して子どもの権利擁護に尽力することができる。

●地方創成学科

地方創成学科は、地域社会における様々な人間関係と地域をめぐる諸問題に、社会科学を中心とした各分野の観点から取り組むことのできる創造力や人間力を育むとともに、地方創成に関わる知識や経験を修得することにより、地域の産業・文化・生活を支える力を養い、地域に活力を生み出す実践力や課題解決能力を有する人材を輩出するため、学生の興味・関心に応じて次のような目標を達成し、学則で定められた所定の期間在学し、必要な単位を修得した学生に学士（地方創成）の学位を授与する。

- (1) 豊かな教養と地域社会の課題を理解するために必要な基礎的な知識・技術を身につけている。
- (2) 地域社会をめぐる諸問題について、専門的な調査・分析の方法を用いて発見することができる。
- (3) 地方創成あるいは地域共生社会の実現に関する具体的な知識や経験を有し、地域に活力を生み出す実践力や課題解決能力を有している。

健康科学部

健康科学部は、医療・栄養の視点から健康科学に関する教育・研究を行うとともに、教育課程を修め、各分野における専門的知識・技術、職業生活の中で実践できる能力を修得し、豊かな人間性を身に付けた者に学士の学位を授与する。

●健康科学科

健康科学科は、生命や人間性を尊重する精神に基づく栄養や保健、医療の専門知識と技術を学び、それらを各分野における職業生活の中で実践できる能力を育む。その能力の基礎の上に、健康科学に関する幅広い知識と技術を連関させる学際的な能力を備え、栄養や保健、医療の分野で活躍できる人材を輩出するため、次のような目標を達成し、学則で定められた所定の期間在学し、必要な単位を修得した学生に学士（健康科学）の学位を授与する。

- (1) 豊かな教養と健康科学に関する幅広い知識・技術を身につけている。
- (2) 栄養や保健、医療の分野に関する専門知識・技能を修得し、専門職種における倫理性を確立しそれを職業生活の中で実践することができる。
- (3) 医療や健康に関する問題に関心を持ち、それらを解決するために栄養や保健、医療の分野の専門知識・思考方法を活用し、多職種チームにおいて主体的かつ柔軟に取り組むことができる。

学科別カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

人間関係学部

人間関係学部は、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、教養科目、学部共通科目、専門科目等を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習及び実技を適切に組み合わせた授業科目を開講する。学部共通科目では、各学科の土台となる基礎的な知識を習得できるようにする。教育内容、教育方法、学修成果の評価については、学科ごとに方針を定める。

●心理学科

心理学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げた知識・意欲・能力を備えた卒業生を輩出するために、教養科目、学部共通科目および専門科目を体系的に編成する。授業形態は講義、演習、実習、卒業研究に分類し、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施する。

1. 教育内容

- (1) 教養科目：豊かな人間性と幅広い教養を身につけることを目的とする科目群を開講する。
- (2) 学部共通科目：「心理学概論」を必修とし、心理学研究の基盤となる基本的理解を図る。また、学修の集大成として「卒業研究」を必修とする。
- (3) 専門科目は、その特性に応じて以下の科目群に分類する。
 - 演習科目：卒業論文執筆のための少人数制の科目である。これまで学修してきた知識や技能をもとに自身の視点でテーマを定め、心理学の学修成果を具現化する手法を修得する。
 - 基礎科目：専門分野を学ぶための基礎として学修すべき科目である。「心理学研究法」「心理測定法」において科学的な測定

方法・研究方法の理解を深める。また「心理学統計法」「応用心理学統計法」により実験・調査から得られたデータを統計的に処理する技術を身につける。

実践科目：心理学における実験や調査、検査等の遂行を通して学ぶ科目である。「心理学実験」及び「心理学検査実習」において実験及び検査の基礎的な方法に習熟し、科学的なレポートの作成能力を養う。「心理学観察演習」及び「実験社会心理学演習」においては研究計画を作成し、データを収集する技術を修得する。

基礎心理、社会・発達心理、臨床心理の各科目・認知・学習などの基礎心理領域から、社会・集団・産業等の社会心理領域、および発達・青年期等の発達心理領域、心理療法・査定等の臨床心理領域まで、各専門分野の理論と知見を体系的に学ぶ。また公認心理師資格取得希望者に対し、学内での「心理演習」による個別的指導、および学外協力施設等での「心理実習」を行い、対人援助の現場における多職種連携や職業倫理への理解を深める。

専門関連科目：心理学と密接に関連する隣接領域を学び、視野の広がりを図る。

2. 教育方法

心理学科の科目は講義・演習・実習・卒業研究という4種類に分類される。

- (1) 講義：心理の各分野の基礎的知識について、修得度合いを小テスト・レポート等で把握しながら教授する。
- (2) 演習：少人数の学生による発表・調査を行う。教員や他学生との対話を通して、課題に対する深い洞察力と批判的思考力を養う。
- (3) 実習：実験・調査等の実践を通じ、研究手法・実践的技術の定着を図る。学外実習では教員と実習施設の実習指導者による指導のもと、職業倫理・実践力・コミュニケーション能力の向上を目指す。
- (4) 卒業研究：担当教員による1年間の個別指導のもとに研究を実践し、卒業論文の執筆・実践報告を行う。

3. 学修成果の評価

各科目の学習内容・評価基準についてシラバスに明示し、成績評価を行う。またポートフォリオ及びGPA制度により学生が自身の学修成果を自己評価できるようにする。

●子ども発達学科

子ども発達学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、教養科目、学部共通科目、専門科目等を体系的に編成し、講義、演習、実習及び実技を適切に組み合わせた授業科目を開講する。教育内容、教育方法、学修成果の評価については、以下のように方針を定める。

1. 教育内容

- (1) 教養科目では、国際的視野の涵養や豊かな人間性の育成、幅広い教養などを身に付けられるよう、個々の志向に合わせて学ぶことができる。
- (2) 学部共通科目では、人間関係に関する基礎的知識と考え方・学び方を修得する科目と「卒業研究」を履修することができる。
- (3) 専門科目では、個々のキャリア・デザインに応じて幅広く学ぶことができる。
 - ① 保育者を目指す者：保育士資格の取得に必要な科目群と併せて、幼稚園教諭一種免許の取得に必要な科目群を履修する。
 - ② 教育者を目指す者：小学校教諭及び中学校教諭(英語)(保健体育)、高等学校教諭(保健体育)、特別支援学校教諭一種免許の取得に必要な科目群を履修する。
 - ③ 子ども学のエキスパートを目指す者：子どもに関わる諸課題に取り組むために、保育学、教育学、心理学、福祉学などの各領域から各自の興味・関心に応じて必要な科目群を履修する。
- (4) 個々のキャリア・デザイン(認定絵本士やスポーツ指導など)に応じた体系的な学びを可能にするため、履修モデルを提示する。

2. 教育方法

学生の主体的・能動的な学習を支援するため、授業においてはディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイ、ワークショップ、反転授業など、様々な教育方法を取り入れている。また、授業時のみならず、オフィスアワー、各種の資格に係る試験対策プログラムなど、個別のニーズに応じた多様な学び方ができる場を設けている。

3. 学修成果の評価

授業科目のシラバスには評価方法と評価基準を明記し、定期試験時における評価だけでなく、レポートや作品など、多様な評価軸による評価を行っている。

また、学生には学期ごと、年次ごとのGPAも明記した成績評価のフィードバックと、それに基づくクラス担任との個別面談を通して、より良い学修成果が得られるよう、振り返りの機会を設けている。

●地方創成学科

地方創成学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、教養科目、学部共通科目、専門科目等を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習及び実技を適切に組み合わせた授業科目を開講する。教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように方針を定める。

地方創成学科では、分野ごとに履修モデルを作成してカリキュラムの体系化を図っている。

1. 教育内容

- (1) 教養科目では豊かな人間性と幅広い教養を身につけることを目的とする科目を開講する。
- (2) 学部共通科目として、「心理学概論」を人間の心理と相互理解についての学習の基盤として据える。また学修の集大成として「卒業研究」を必修とする。
- (3) 専門科目は、専門を学ぶための基礎として学修すべき科目である専門基礎、学んだ知識・技術を発揮し、地域創成を経験から学ぶプロジェクト実践、地域を支える仕組みや社会福祉について学ぶ地域ライフデザイン、地域創成の方法を観光・文化・食や農業等を中心に学ぶ地域イノベーションに分類される。

2. 教育方法

各授業の「授業の目的・到達目標」「授業概要」「授業計画」「教科書」「参考書」などについてはシラバスに詳述されている。授業の進行に当たり、可能な限り学生の主体的・能動的学習を促すとともに、その詳細については「授業計画」に記載している。またオフィスアワーなどを利用して授業時間外での学習支援を行っている。

3. 学修成果の評価

シラバスの「成績評価の基準」に明示している。また成績表においてはGPAによる評価も行っている。

健康科学部

健康科学部は、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、教養科目、学部共通科目、専門科目等を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習及び実技を適切に組み合わせた授業科目を開講する。学部共通科目では、各学科の土台となる基礎的な知識を修得できるようにする。教育内容、教育方法、学修成果の評価については、学科ごとに方針を定める。

●健康科学科

健康科学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、教養科目、学部共通科目、専門科目等を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習及び実技を適切に組み合わせた授業科目を開講する。教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように方針を定める。

健康科学科では、専攻ごとに履修モデルを作成してカリキュラムの体系化を図っている。

1. 教育内容

- (1) 教養科目では豊かな人間性と幅広い教養を身につけることを目的とする科目を開講する。
- (2) 学部共通科目として専門科目を学ぶ上で基礎となる科目を据える。また学修の集大成として「卒業研究」を必修とする。
- (3) 専門科目は専門職種に応じた専攻を設け、各専攻の教育内容は以下のとおりである。

◆管理栄養専攻

基礎から応用へ進みながら履修できるよう専門基礎分野、専門分野、専門発展領域を配置している。専門基礎分野では専門科目を学ぶ上で基礎となる科目を配置し、専門科目では専門科目を学ぶ上で基礎となる科目を配置し、専門科目では食品開発や栄養管理の専門家としての栄養士、さらに学びを深め病態に応じた栄養ケア・マネジメントやチーム医療の専門家としての管理栄養士、その知識を活かし、保健所や病院、事業所等で栄養教育や栄養指導を行い、疾病予防やQOL向上を行うために役立つ科目を配置している。専門発展領域では、学んだ内容を踏まえ、食・農に関する生産・加工・流通・販売までを幅広く学ぶ科目や、問題発見・解決能力、プレゼンテーション能力を養成する科目を配置している。

◆臨床検査・臨床工学専攻

臨床検査・臨床工学専攻では臨床検査技師および臨床工学技士の2つの資格を養成するカリキュラムとなっている。臨床検査に関する学びは、臨床検査専門基礎分野、臨床検査分野に分類される。臨床検査専門基礎分野では医学的・科学的基盤となる知識と技術を修得するべく病態学、公衆衛生学、医用工学概論等、臨床検査学を学ぶための自然科学の基礎学力を中心に学ぶ。臨床検査分野では多様な実習(生理機能、微生物、生化学、免疫など)に加え病態の解析や、検体・生体検査に関する専門的な知識と技術を修得し、国家試験に必要な科目に加え、精度管理、感染対策、医療安全など、臨床検査技師として必須の能力を備える。

臨床工学分野では、医療の高度化・専門化が進展する現代において、診療技術の進歩および医療機器の高度化・複雑化に対応できる臨床工学技士を養成することを目的とする。そのため、基礎医学・工学基礎から臨床応用までを体系的・段階的に学修できる教育課程を編成し、専門知識と実践力を統合的に修得させる。

◆言語聴覚専攻

言語聴覚専攻では、豊かな教養に支えられた広い視野を基盤とし、拡大する言語聴覚分野の広汎な各専門領域の高度な知識・技能を身につける。そのため1・2年次には、教養科目及び学部共通科目と並んで、基礎及び臨床医学並びに専門科目を学ぶために基礎となる科目を履修する。それらの科目の修得を確認したうえで、3・4年次には、言語聴覚障害の専門科目群を相互に密接に関連づけながら学び、断片的知識を発展的に統合させ、症例と向き合うための具体的な臨床技能を専門演習を通し高める。加えて学外の医療機関等での臨床実習を通して実際の現場で患者の評価やリハビリテーションを行い、言語聴覚士としての基本的姿勢を身につける。4年次には大学での学修の成果として卒業研究論文を作成し、プレゼンテーションを行い、卒業後の言語聴覚士としての生涯の研鑽の基礎とする。

◆救急救命専攻

救急救命専攻では、専門的知識・技能に依拠した救急医療の確実な遂行能力と生涯学び続ける強い意欲を有しながら、同時に傷病者への深い共感にあふれた医療人を養成する。そのため、1・2年次には、基礎及び臨床医学に加え関連科目や専門科目を履修し、これら要求を満たす医療従事者としての教育の導入部とする。さらに、必須科目の修得を確認したうえで、3・4年次には、修得した知識・技能を確実なものとするとともに、ガイドラインの改定など医療の進歩に対応しうる手技や具体的手順に習熟する。加えて、病院内臨床実習では、病院内診療における理解や病院前救護におけるメディカルコントロール体制及び救急活動プロトコルを含めた救急活動の実際とチーム医療の重要性を経験する。また、消防機関をはじめとする学外協力施設においての実習や視察研修では、各組織の役割から担当任務の実際を学び、卒業後の進路選択に柔軟に対応するための基礎力や応用力を身に付ける。

※出願時に選択した専攻は、合格後に変更することはできません。

2. 教育方法

各授業の「授業の目的・到達目標」「授業概要」「授業計画」「教科書」「参考書」などについてはシラバスに詳述されている。授業の進行に当たり、可能な限り学生の主体的・能動的学習を促すとともに、その詳細については「授業計画」に記載している。またオフィスアワーなどを利用して授業時間外での学習支援を行っている。

3. 学修成果の評価

シラバスの「成績評価の基準」に明示している。また成績表においてはGPAによる評価も行っている。

東海学院大学短期大学部のアドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

幼児教育学科は、建学の精神「国際的な視野を備えた創造性と行動力豊かな教養人の育成」に基づき、教育・保育の課題について実践的な教育を展開してきた。本学科は、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲等を備えた学生を求める。

- (1) 保育者としての学修に必要な基礎学力を有し、保育が子どもの「生きる力の基礎」を育むものであることを理解することができる人。
- (2) 現代社会が抱える課題に問題意識を持ち、子どもに寄り添ってその成長・発達を援助するために必要な学修を積極的に行う意欲を持つことができる人。
- (3) 多様な文化や価値観の違いを理解し、自他を尊重する意識を持ちながら、他者と主体的にコミュニケーションをとり、協働することができる人。

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

幼児教育学科は、建学の精神に基づき乳幼児期の子どもの豊かな心と健やかな体の成長・発達について専門的知識と技能を有し、子どもの成長・発達や子どもを取り巻く社会の変化に主体的に対応できる実践力をもった人材の養成を目的とする。そのため本学科では、所定の課程を修め、卒業に必要な条件を満たした上で次のような目標を達成した者に学位「短期大学士(教育学)」を授与する。

- (1) 子どもの豊かな心と健やかな体の成長・発達を支援する専門的知識・技能を修得し、教育及び保育の現場で実践することができる。
- (2) 子どもに関わる課題に多方面から主体的に向き合い、他者と協働しながら子どもの心に寄り添ってその成長・発達を支援し、課題の解決に取り組むことができる。
- (3) 教育及び保育の現場で主体的に活躍し、社会と連携しながら地域で子どもを育てる活動にかかわる意欲をもつことができる。

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

幼児教育学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、教養教育科目、専門教育科目及び自由科目を体系的に編成し、講義、演習、実習及び実技を適切に組み合わせた授業科目を開講する。教育内容、教育方法、学修成果の評価については、以下のように方針を定める。

1. 教育内容

本学科では、幼稚園教諭免許状・保育士資格の取得が可能である。

- (1) 教養教育科目は、建学の精神である「国際的な視野を備えた創造性と行動力豊かな教養人の育成」のために幅広い教養の涵養かつ専門教育への導入と位置付ける。
- (2) 専門教育科目は、「教育職員免許法施行規則」及び「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」に定められている科目を配置し、それに加えて、各自の専門性を身につけ実践力を育成するための学科独自の科目を配置する。
- (3) 自由科目は、専門教育科目には含まれない内容を盛り込み、学生の主体的・自立的な学びを期待している。また、幼稚園教諭免許状及び保育士資格以外の資格を取得するために必要な科目群である。
- (4) 卒業後の進路や興味・関心のある内容ごとの履修モデルを提示することによって、学修の道筋を示す。

2. 教育方法

実践力養成のための授業科目を充実し、学生の主体的・能動的な学びを促している。また、オフィスアワー等による学習支援と、キャリア形成プログラム等による実体験を通じた学びの機会を提供している。

3. 学修成果の評価

各科目の評価基準はシラバスに示し、それに沿って評価を行う。また、GPA制度を導入し、自身の学習成果の推移を明確に把握できるようにする。

2年制

2年間で最大限に活用して充実した学びをし、幼稚園教諭二種免許や保育士資格など、さまざまな資格を取得する課程です。

1. 保育者として必要な、実践力を培う

「あそびの森」や「東海えほんの森」に地元の子どもたちを招いたイベントや、附属幼稚園でのボランティア活動を通して、高い実践力を養います。

2. 各自の強みを伸ばす特長あるカリキュラム

学生一人ひとりの興味や得意分野に合わせて科目を選択し、将来の保育現場で活躍できる専門性を持った保育士、幼稚園教諭を目指します。

3. 多様な資格を取得することができる

幼稚園教諭二種免許、保育士資格取得の他に、多様な資格を取得できます。将来の進路を幅広く選択できるのも本学の大きな特長です。

※出願時に選択した修業年限(2年制・3年制)は、合格後に変更することはできません。

3年制 (3年 LaLa 履修制度)

本学短期大学部の「3年LaLa履修制度」は、2年分の学費で通学し、短期大学部を3年間で卒業する制度です。勉学と仕事などの両立を計画的に行うことができます。この制度を活用して、自分に合ったペースで学生生活を送れます。

3年制(3年 LaLa 履修制度)とは

1. ライフスタイルに合わせて、「ゆとり」をもって学習することができる。
授業は基本的に月曜日～金曜日の午前中だけですので、趣味やアルバイトの時間を充実させることができます。3年間という時間の中で、ゆとりをもって学ぶことができます。
2. 3年間で、保育士資格と幼稚園教諭二種免許が取得できる。
保育士資格、幼稚園教諭二種免許の取得以外にも、生活時間の工夫次第で、他の資格も取ることができます。
3. 経済的な負担の軽減
アルバイトや仕事、子育てとの両立を実現し、保育者になりたいというあなたの夢を、経済的負担を少なくして、叶えることができます。

※出願時に選択した修業年限(2年制・3年制)は、合格後に変更することはできません。

次のような方に適した制度です

- 働きながら学びたい方 ○キャリアアップを図り、資格取得を目指したい方
- 空き時間を活用して保育や幼児教育について理解を深めたい方 ○社会人で学びなおしをしたい方